

年齢調整死亡率の目標数値（全体目標）について

1 第1次計画の目標と現状について

○5年間で75歳未満のがんによる年齢調整死亡率の10%減少

（「年齢調整死亡率」＝人口10万人当たりの死亡者数（人））

区分	H18 (2006)	H23 (2011)		H23-H18	目標の達成状況
	① 計画策定時	目標	② 現状	③ (②-①)	
男性	119.3人	107.4人 (▲10.0%)	106.6人	▲12.7人 (▲10.6%)	達成
女性	60.0人	54.0人 (▲10.0%)	56.9人	▲3.1人 (▲5.2%)	未達成
男女計	88.0人	79.2人 (▲10.0%)	80.5人	▲7.5人 (▲8.5%)	未達成

※ 計画策定時（H18）と目標（H23）の数値は、広島県人口動態統計年報により県独自に算出

※ 現状（H23）の数値は、国立がん研究センターが算出したもの

2 第2次計画の目標

○目標：「今後5年間で75歳未満のがんによる年齢調整死亡率の10%減少」

区分	H23 (2011)	H28 (2016)	H28-H23	備考
	① 現状	② 目標	③ (②-①)	
男性	106.6人	95.9人	▲10.7人 (▲10.0%)	
女性	56.9人	51.2人	▲5.7人 (▲10.0%)	
男女計	80.5人	72.5人	▲8.0人 (▲10.0%)	

※ 現状及び目標の数値は、国立がん研究センターが算出したものとする



○目標達成には、75歳未満のがんによる死亡者数を約330人減少させることが必要

・(A)は死亡率の変動なし、(B)は死亡率10%減少で試算

区分	H23 (2011)	H28 (2016)	H28-H23	備考
	①	②	③ (②-①)	
75歳未満の人口	2,512,731人	2,406,178人	▲106,553人 (▲4.2%)	
75歳未満のがんによる死亡者数	3,426人	(A) 3,282人	▲144人 (▲4.2%)	H23からH28で死亡率の変動なし
		(B) 2,954人	▲472人 (▲13.8%)	・H23からH28で死亡率10%減少 ・死亡率に変動のなかった場合と比較して、死亡者数は328人少ない(A-B)

※ 平成23年の人口及び死亡者数は「広島県人口動態統計」による。

平成28年の人口は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」（平成19年5月推計）を参考にして、年齢階級ごとに算出し合計した推計値。

平成28年の死亡者は、平成23年の粗死亡率を基に、年齢階級ごとに算出し合計した推計値。

「がん検診」分野における検診受診率の全体目標設定について

■ 次期計画の目標に関する考え方

- 受診率向上対策は、検診の対象となる県民全体に対して行うものであり、その目標についても、県全体の受診状況を反映する指標を活用する。
- 都道府県計画は、国の計画を基本として策定することとされている。
- 特に高齢者は、検診ではなく診療で通院している者が多いと考えられることから、年齢に上限を設けて目標値を設定する。

国のがん対策推進基本計画（平成24年6月策定）

- ・ 「がんの早期発見」分野における個別目標（抜粋）
 「がん検診の受診率については、5年以内に50%（胃、肺、大腸は当面40%）を達成することを目標とする。目標値については、中間評価を踏まえ必要な見直しを行う。また、健康増進法に基づくがん検診では、年齢制限の上限を設けず、ある一定年齢以上の者を対象としているが、受診率の算定に当たっては、海外諸国との比較等も踏まえ、40歳から69歳（子宮頸がんは20歳から69歳）までを対象とする。」

■ 次期計画の分野目標（案）

- がん検診受診率を、平成28（2016）年度までに50%以上を達成することを目標とする。
- これらの算定にあたっては40歳（子宮がんのみ20歳）～69歳までを対象とする。

* 県内の検診対象者全体を反映した指標で、全国比較が可能な国民生活基礎調査を指標として活用する。

※がん検診受診率（H22国民生活基礎調査）

種別	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮がん	乳がん
受診率	32.6%	23.3%	23.3%	40.0%	36.9%

*対象は、40歳（子宮がんのみ20歳）～69歳